



図 12 企業情報階層イメージ

etc.

② 合理的思考の精神(解決)

客観的評価体系としての定式化, アルゴリズムの論理性, 説得性とコンセンサスを求めて, etc.

③ 広範囲な情報へのアクセス(情報)

戦略思考が情報を求める, 計画のための情報システム, 情報チャネルとしての人間, etc.

このようなORマインドを育てていくことを通して, ORは企業の中で, 今までより大きな効果を発揮することができるはずである.

従来のOR手法の部分的適用は図12のような企業情報階層の比較的下位レベルにおいて, 一応の成果は上げたものの, 上位レベルの意思決定にはほとんど用いられていなかった. しかし, OR手法の経験で培われた合理的思考の精神が, 企業の抱えている問題の本質としての本来のORニーズを知ったときに, そして, より幅広い情報の支援を受けたときに必ずや企業にとって効果的な方策を提示できると信じている. その意味で, OR手法は企業内に真のOR風土をもたらす呼び水の役を果たすことになるだろう.

おわりに

企業とORの歴史は古いにもかかわらず, おのおのの

局面で真価を発揮しているかと言えば, 総合的にみて未だしの感があるように思われる. その原因を受入側の企業の保守性, 非合理的な組織, 風土に求めることもできるが, 今までのORが解法にのみ熱心であって, 真の問題へのアプローチの迫りに欠けていたことも否めない事実であろう.

本稿では, 一製造業の中でOR技術の担当部門としてこれまでやってきたわれわれ自身の反省もこめて, 今後の企業内ORワーカーに残された課題に向ってのオリエンテーションを考えてみた. ただ, はじめに書いたように, われわれの経験の貧しさ, 考えの浅さから, テーマを十分にこなすまでには至らなかった. 末文に当り, 本稿はORと企業という大きな場における今後のあり方に焦点を置き, 大局的に見た留意点を考えてみたわけで, 狭義のORの活用と有効性の実例をいまさら列記することは本テーマの前向きな趣旨でもないので, あえて割愛した. なお, 本稿のきっかけとなったのは, 当社システム部長, 中川が54年9月にOR学会で行なった「企業とOR」と題する特別講演である. 予稿集を参照いただければ幸いである.

参 考 文 献

- [1] オペレーションズ・リサーチ, Vol. 22, No. 7, 1977年.
- [2] 中川「制御理論のプロセス制御への応用」計測と制御, Vol. 16, No. 3, 1977年.
- [3] 中川「企業とOR」OR学会大会予稿1979年9月
- [4] 秩父セメント・システム部報告集.

昭和54年度論文審査委員

昨年度投稿論文の審査をお願いしたのは次の方々です. 本学会論文誌のレベルを維持するために多大のご貢献をいただいたことを厚く御礼申し上げます. (編集委員会)

阿部 俊一	加藤 豊	沢木 勝茂	高橋 豊	穂鷹 良介	森村 英典
伊理 正夫	片岡 信二	島 公脩	竹内 啓	真鍋 龍太郎	柳井 浩
石井 博昭	金子 守	嶋田 正三	刀根 薫	前島 信	山下 浩
出居 茂	河合 一	島田 俊郎	中川 覃夫	牧野 都治	山田 敬吾
岩本 誠一	J. B. Kadane	鈴木 武次	鍋島 一郎	松田 武彦	山本 正明
江藤 肇	木瀬 洋	鈴木 光男	西田 俊夫	三根 久	渡辺 忠
小田中 敏男	小島 政和	田中 謙輔	橋田 温	嶺野 幸子	鷲尾 泰俊
大野 勝久	古林 隆	田畑 吉雄	鳩山 由紀夫	宮原 秀夫	
大山 達雄	今野 浩	高橋 磐郎	伏見 正則	武藤 滋夫	
岡本 吉晴	坂口 実	高橋 幸雄	藤沢 武久	森 清 堯	